

いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本

子どもの読書活動

学校・園の取り組みを紹介します③

☎ 社会教育課 ☎ (582) 1142 ☎ (581) 2733

河西小学校

「すてきな本との出会いを」

毎週月曜日に読み聞かせボランティアの「どりーむ」さんに来ていただき、1年生を中心に絵本の読み聞かせを行っています。読み聞かせの前には手遊びやクイズなども取り入れていただき、ワクワクする楽しい時間を作ってもらっています。

また、読んだ本を書き貯めていき、琵琶湖を一周する「読書でGO！」の取り組みも、子どもたちが本を読む意欲につながっており、嬉しそうに自分のカードに本の題名を書きこむ児童の姿がたくさん見られます。

これからも心に残るすてきな本との出会いをしていくため、ボランティアさんとの交流を大切に、子どもたちの豊かな心を育てていきたいと思ひます。



速野小学校

「毎回楽しみにしているお話会」

速野小学校では、図書ボランティアの「ほんわかい」さんが毎月活動してくださっています。10月は、1年生と2年生のお話会がありました。子どもたちは、季節や学年に合わせて事前に選んでもらった本を読んでもらい、とても楽しみながら絵本の世界に浸っています。読んでもらった本は、学校図書館に置いてもらっているのひ、もう一度読み返している子どもの姿も見掛けます。

また、週に2回程度、学校図書館の整理や貸し出しの補助をしてくださっています。そのおかげで、子どもたちは、本が整理された環境で読書に親しむことができているひ。



佐川美術館
アートコラム⑦

禅画②

せんが い
仙厓さん

佐川美術館
学芸員・藤井康憲



前回のアートコラムで紹介した白隠と同じく、誰にでも親しみのもてる画風の禅画を手掛けた仙厓。73歳にして「世の中の絵画には法があるが、仙厓の絵に法は無い」という「厓画無法」を宣言したように、自由奔放な筆遣いで動物から神仏まで幅広い画題を描いています。

仙厓の禅画はわずかな筆致で、シンプルさが極まる素朴な表現によつて描かれ、今でいう「ゆるキャラ」のような親しみやすさを持っています。

「博多の仙厓さん」と親しまれた仙厓が描いた書画は、当ても大変な人気を集めていたよつで、偽物も数多く出回っていたといひます。その人氣ぶりは、晩年のエピソードからもうかがうことができます。

83歳のときに、頼まれても絵はもう描かないという絶筆宣言をしましたが、仙厓に絵を描いて欲しいという依頼は止むことなく、「恨めしや我が隠れ家は雪隠(今でいうトイレ)か 来る人ごとに紙おいてゆく」という戯れ歌が残されています。

人々が仙厓に絵を依頼するため、多くの紙を置いてゆく光景をトイレに例えたユーモアあふれる歌です。

現在、佐川美術館で開催中の「ZENGA 白隠と仙厓展」で、仙厓の描いたユーモアあふれるゆるくて愛らしい禅画の数々をご覧ください。